

インタビュー

子育ても家事も、妻と二人三脚 家族は大事なチームです!



日本のバス界で、今シーズンから新たなプロリーグ「Bリーグ」がスタートしました。今野翔太選手はここに参戦する大阪エヴェッサで、キャプテンも務める中心選手。一児の父でもあり、仕事を持つ妻とともに子育てに家事に、そしてバスに全力で取り組む今野選手が、“イクメン”としての心構えや家庭での役割、家族との暮らしなどを語ってくれました。

大阪エヴェッサ 今野 翔太選手

プロフィール

1985年生まれ。大阪府出身。府立山田高校から大阪学院大学を経て、'07年にbjリーグの大阪エヴェッサに入団。1年目に優勝メンバーに名を連ねた。以後、2013-14シーズンに信州ブレイブウォリアーズに在籍したシーズンをのぞき、大阪エヴェッサでプレーする。ポジションはSG/SF。チームのキャプテンも務める。

負けん気を持つことが僕の原点

僕がバスケットを始めたのは、小学校6年生のころ。理由の半分は、地元の友達がやっていたミニバスに誘われたこと。もう半分は、運動をしていなくて太っていたことです(笑)。バスケットを始めるまで、休み時間は教室にいるような子でした。母親になにかスポーツをやりなさいと言われていて、そのタイミングで友達が誘ってくれたんです。

バスケットが楽しくなったのは、後になってからでした。最初はただただ、しんどくて。なぜ頑張れたかという、年下の4年生なのにチームのエースの子がいて、彼は朝6時から学校に来てひとり練習をしていたんです。それを知って「カッコええ!」と思って、マネしようと思ったのがきっかけでした。それからは彼より早く学校に行って練習して、そうしているうちにどんどんのめり込んでいきました。

どのステージでも、自分より上の選手はいます。僕はそれに負けないように努力してきましたし、小学生のときに漠然と思い描いていた「プロになりたい」という夢が、変わることはありませんでした。そうやってバスケットを通して、人間的にも成長できたと思います。実は僕、すごく負けず嫌いなんです。顔には絶対に出さないで、影で黙々とやるタイプ(笑)。プロ選手であり続けるために大事なことは、ブレないこと。自分がどうやってプロになったのか、自分の土台がどうやってできたのかという、それは負けず嫌いの気持ちを持って、目の前の上手い人を越えていこうだと思って練習し続けてきたからなんです。小学生のときに年下の4年生の子を見てから、ずっと負けん気を持ってやってきたことが僕の原点。それを、忘れないようにしています。



結婚して生活もバスケットも変わった

プロになって最初はなかなか試合に出られず、気持ちがバスケットに真っ直ぐ向いていない時期もありました。そんな僕が変わった大きなきっかけは、プロになってしばらくして結婚したことです。結婚すれば、いい結果も出るんじゃないかと思っていたので、早く結婚したいと思っていました。そうしたら、本当にその通りになったんです!

練習にも身が入るし、ご飯をしっかり食べて夜更かしもしなくなった(笑)。それに息子が生まれたことも、僕のなかでとても大きなことでした。結婚したときもそうでしたが、バスケットで活躍したいと思う気持ちが、さらに大きくなりました。

家事も子育ても、働く妻と助け合いながら

息子は今、4歳になりました。平日は朝6時半くらいにいっしょに起きてご飯を食べて、服を着替えさせて幼稚園のバスまで送り出しています。僕の練習が朝からのときは、妻が送っています。息子は夕方に帰ってくるので、練習を終えてから僕が迎えに行ってますね。家に帰ってからは、我が家の晩ご飯は早いので6時半くらいに食べて、息子を風呂に入れて8時半くらいに寝かしつけます。週末は試合がありますが、平日はだいたいこんな1日ですね。会社員の男性でいつも帰宅が遅くなって、子どもの寝顔しか見られないという話も聞きますが、僕には考えられない。そんなの寂しすぎますよ(笑)。

我が家は妻も働いていて最近、飲食店をオープンしたんです。開店前の準備期間がちょっと大変で、晩ご飯の時間もなかなか合わなかった。そのころは、朝も夜もほとんど僕が子どもをみていました。僕が試合で遠征に行くときはお互いに助け合ってやっています。ふたりとも働いて子育てをしながらなので、家事も妻と僕で分担してやっているんですよ。いちおう役割があって洗濯は僕、洗い物は妻。今日も朝から洗濯物を取りこんで、家に帰ったら僕が息子の服と自分の練習着を洗って干します。気付いたときに妻が洗濯物を干してくれたら、僕が洗い物をしますし。そんなユルい感じで、厳格なルールはありません。ウチの場合はルールや役割分担を厳格にすると、それに縛られてかえって上手くいかないかなと思います。上手くいかないことがあれば話し合いますし、妻も仕事のことで僕に相談もしてきます。普段から話し合っただけで生活しているのが、いいんだと思います。



家族が僕をバスケに向かわせる



僕のなかで仕事と生活のバランスは、十分とれています。好きなことを仕事にして、大好きな家族がいる。言うことがないくらいです。結婚した当初はバスケで結果が出ないと、モヤモヤした気持ちを家にまで持ち帰ったりしていましたが、今はもうまったくありません。バロ負けして自分も全然ダメなときは、家に帰ってきて最初はちょっと暗いけど、家族の顔を見て子どもといっしょに遊んでいたら「よし、明日また頑張ろう」って、その日のうちに切り替えられます。

それもこれも、家族がいるから。我が家は僕が引っ張っているというより、みんなで支え合っています。家族が僕を応援して協力してくれるから、バスケに一生懸命になれる。だから僕も生活のなかでどんなことも協力して、妻が働くことを支えたい。家族であり、大事なチームですからね。それまでバスケは自分のためにやっていたんですけど、今は家族のため。僕が活躍することで、家族も幸せになれる。プロ選手としてのやりがいは沢山ありますが、今の僕をバスケに向かわせる原動力は家族なんです。

第7回イクメン写真コンテスト(平成28年度)受賞作品決定!

グランプリ

えーい!まとめて3人
仕上げ磨きや!
丸岡 智子さん



準グランプリ

僕たち、じいじとの
お風呂が大好きなんだ～
岸 瞳さん



準グランプリ

ママ
行つてきます。
阿曾 達也さん

